

氏名	巻 幡 榮 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3168号
学位授与の日付	平成9年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Preoperative Multidisciplinary Treatment with Hyperthermia for Soft Tissue Sarcoma (温熱療法を併用した軟部組織肉腫の術前集学的治療成績)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 原田 実根 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

軟部組織肉腫 14 (四肢 13, 背部 1) 症例に対し、術前に温熱、放射線、化学療法を併用することにより、腫瘍の切除範囲を縮小し局所制御率の改善を試みた。有効率は 71% (14 例中 10 例) であった。切除標本での壊死率は平均 78% と高く、90% 以下が 7 例、91% 以上が 7 例であった。温熱療法のパラメータと切除標本での壊死率とを対比した。腫瘍内の温度と加温時間の両方を反映するパラメータである $\text{Time} \geq 42^\circ\text{C}$ は、壊死率 90% 以下の群と 91% 以上の群でそれぞれ 197 分と 364 分で、統計的有意差 ($p < 0.05$) がみられた。これは加温の効果は温度と加温時間の両方によって決定され、温度を上げて、かつ加温時間を長くすることが、局所の治療効果を高めるのに重要であることを示している。術後の経過観察期間は平均 27 カ月 (8~61 カ月) であり、4 例に遠隔転移 (肺転移 3 例、脳転移 1 例) がみられ、このうち 3 例が死亡した。カプランマイヤー法による 3 年生存率は 64.3% であった。経過観察中に局所再発は 1 例もみられず、術前療法による機能障害もみられなかった。温熱療法を併用した術前集学的治療は軟部組織肉腫に対して優れた有効性を示した。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は軟部組織肉腫に対し温熱療法を併用した術前集学的治療について検討したものである。著者らは軟部組織肉腫 14 例に対し、術前に温熱、放射線、化学療法の併用療法を実施した。従来の軟部組織肉腫に対する外科単独療法の局所再発率は 30~70% と報じられているが、著者らの温熱療法を中心とする併用療法は切除範囲を縮小して患肢温存し、しかも術後の観察期間平均 27 ヶ月における局所再発率を 0% とする優れた治療成績を挙げている。さらに加温の条件を検討し、組織内温度 42°C 以上持続時間と組織壊死率との間に有意の相関を見出した。比較的まれな腫瘍である軟部組織肉腫に温熱併用放射線化学療法が有望であることを示した本研究は悪性腫瘍の治療学にとって価値ある業績と認められる。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。